

通過型観光から 滞在型観光へ

鳥取市観光の現状は、その日限りの通過型観光がほとんどです。これまで経済効果がもつとも期待される滞在型観光へ向けて、数々の施策を行ってきましたが、いまだ効果が現れているとはいえません。

この状況を打開するため、多くの協議・会議を開催し、たくさんの方の提言・提案をいただいています。

財政の厳しい時であり、高いハードルを設けながら事業は進められますが、これらの提言・提案の中から結果を得られる可能性の高いものを選び、対策を検討していきたいと思っています。

まずは、滞在型観光に向けて、観光客が次の日の朝も鳥取にいていただけるよう、2日分の観光素材をこの地域に作り上げることに重点を置きながら、取り組んでいきたいと思っています。

広域観光の推進

合併して、広い市域となりました。「広すぎる」という声も聞かれますが、広域観光の推進においては、非常にやりやすくなったといえます。

各地域が持つ観光素材を調査したうえで、観光客のさまざまなニーズに応じた観光ルートを作成や、各地域が連携した祭り・イベントの共同開催、日程調整による連続的なイベントの開催など、多彩な取り組みが考えられます。

観光拠点の再整備

鳥取砂丘、鳥取港をはじめとする戦力となる各素材を再点検し、有効性を確認しながら必要な整備を実施します。

温泉地の魅力向上

温泉と観光は切り離せないものであり、一体的に進めていく必要があります。市内4つの温泉地にある個店の質の向上を図るなど、温泉地としての魅力アップを地域とともに進めていきます。

イベント事業の支援

イベント事業は、経済効果・地域個性・伝統文化など、多くの要素を確認しながら実施支援をして行きたいと考えています。

旧町村で実施されてきたイベントの形態はさまざまですが、まずは「地域主導・行政支援」という形に重点を置き進めていきます。

コンベンションの 開催頻度を高める努力

コンベンションの開催は、直接的な経済効果を発揮します。市では今後、開催頻度を高めていくため、必要な事務支援を含め、開催事務局が相談しやすい体制を整えていきます。

もてなしの心をみんなで

観光地全体をサポートするのが「大切な遠来のお客様をお迎える、自然なもてなしの心」です。

観光従事者はもちろんのこと、市民のみなさんも一緒になつていただき、「自然なもてなし」でお客様をお迎えしましょう。



観光拠点として整備が検討されている鳥取砂丘



温泉客を迎える浜村駅前周辺



鳥取駅構内に設置されたイベントの案内看板